

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073200158		
法人名	(株)データベース		
事業所名	グループホーム我楽		
所在地	福岡県大野城市乙金台1丁目11番31号 (電話) 092-504-0831		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 12 日	評価結果確定日	令和 2 年 11 月 16 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・お一人お一人の持つ力と意思を尊重し、その人らしい生活ができるよう支援に努めている。  
 ・生活の中で、楽しみながら出来ることをお手伝いしてもらいながら身体機能の維持をはかっている。  
 ・否定しない言葉掛け、敬意を持った言葉掛けに努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 2 年 9 月 8 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅地の中の一軒家である。介護保険が始まる前からたずむ家では、職員と利用者が家族の一員として生活している。それぞれが、家族の構成メンバーとして必要不可欠である。「自分のおうち」で安心して日々を過ごしていただくことにこだわり、一人ひとりの個性を大切に、話を聴き、敬意、楽しく暮らせるよう支援している。近隣者とも自然に挨拶を交わす関係ができています。  
 毎日がゆっくりと過ぎ、タイムスケジュールに縛られないよう配慮している。天気が良い日は散歩に行き、雨が降れば「いっしょ会」で楽しむ。庭にはみかんや柿が生り、収穫したら近所にもおすそ分けをする。きれいな花が咲いたら食卓に活ける。遠方に旅行に行くときは、利用者の介助方法を2週間かけ家族に伝える。そんな笑顔が絶えない事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に全員で理念を唱和している。また不定期ではあるが、実際に理念に添ってどうケアに当たったのかをお互いに報告し合う時間を設けている。	理念は、利用者に対する尊敬や生活の基盤となる接し方、地域密着の視点があり、毎朝の申し送りで唱和している。理念に基づく言動を一人ずつ発表し、職員同士もお互い言葉をかけあい実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、夏祭りやどんと焼き等の地域の行事参加や公民館での音楽サロン出席、またチラシ配りを利用者様と一緒に行うなどしている。	町内会に加入し、地域の行事は積極的に参加している。公民館で毎月音楽サロンがあり、地域の方と一緒に体操や歌を歌っている。夏祭りやどんと焼きにも参加している。敬老会では、地域の子供から手紙が届いている。近所の方からおすそ分けをいただく、事業所からも果物などのおすそ分けをしている。散歩のときは挨拶を交わす等良い関係が築かれている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事参加や外出支援の際にお会いにする地域の方々に対して、利用者様ともどもお話をしながら自然な形で理解して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故についての捉え方についてご意見を頂いた際は職員全員納得でき、たいへん参考になった。また他施設における事故予防への取組みなど参考にしている。例えば餅つき行事の際の、もち誤嚥予防にサツマイモを混ぜ込むなど、実行に移している。	2ヶ月に1度運営推進会議が行われ、行政や地域住民代表が参加している。利用者やサービスの実際、ヒヤリハット事例も報告している。利用者の尊厳とリスク管理について意見を交わしており、会議で出た意見は積極的に取り入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議にてさまざまな報告や相談をしているが、普段も頂いたファックスなどで分からないことがあれば気軽に連絡をし、教えて頂いている。また介護サービス相談員の方にいただいた意見を実践している。	行政とは日頃から行き来がある。電話連絡が主だが、事業所の連絡や報告を行うとともに、行政からは災害時の受け入れについて相談を受ける等連絡を取り合っている。行政が主催する勉強会には、積極的に出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修参加に努め、施設内においても「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」を含め、年に6～7回の研修を行い、身体拘束に抵触しそうな事を見つめながら、職員全員が持ち回りで講師をする形で理解を深め実践している。	玄関は施錠せず、鈴の音やセンサーを設置している。利用者は、玄関を入ってすぐのリビングで過ごすことが多く、職員は利用者の言動を見守っている。外出傾向がある利用者とは一緒に散歩に出かけることを基本としている。身体拘束の勉強会は、委員会を含め複数回実施し、職員は利用者の安全と権利を守る取り組みをしている。	

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修参加に努め、その伝達研修を行っている。不適切ケアや虐待については日頃から特に念頭に置いており、職員間で遠慮なくチェック、相談、指摘をし合う雰囲気作りをしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については内部研修を行っている。他の内部研修に漏れず、施設内の利用者様やケースと照らし合わせながら行っている。日常生活自立支援事業については、改めて近日中に開催を予定する考え。	権利擁護の制度は契約時に説明している。職員は、外部研修や伝達研修、内部研修を通じ、学ぶ機会がある。問合せや必要性を感じた際に、研修資料を参考にすることができる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し、理解を得た上で契約している。また、管理者・看護師も含め入居者様の状況確認を行い、施設の種類や違いなど十分な説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。また来設の折に、日頃から気になる点や心配事などをお聞きし、言葉のみならず非言語の部分でも感じとるように心がけている。早めの改善を心がけている。	利用者のことばを傾聴し、日頃の会話の中で、意見や思いを汲み取るよう心がけている。本人を否定せず気持ちを伝えやすい雰囲気を作り、できるだけ願いをかなえるようにしている。また、家族とも関係を構築し、積極的に運営に関わっていただくよう声かけを行っている。家族ノートを作成し、伝えたいことや確認したいことを把握している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者が折に触れ来設し、入居者様や職員と直接話す機会を作り、意見交換を行っている。職員が意見を出しやすい環境づくりをしている。	管理者は、日常業務の中で職員の意見を聴き、気を配りながら声かけをしている。職員の積極的な意見や提案は、運営に反映させている。改善事項は、申し送りノートと、口頭引継ぎで周知している。法人間の人事異動はあるが、業務内容の明確化を図ったことから、働きやすい環境を整えた実績がある。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員個々の努力や実績を含め給与や賞与の改善に努めている。また、残業はイレギュラー時以外しないよう指導を行い、サービス残業は皆無である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	男女経験を問わず採用し、入社後は既存スタッフによる研修フォローやOJTを行っている。	採用要件は柔軟である。業務内容の明確化、可視化を行い、働きやすい環境を整えている。資格取得は、本人の意思だが、希望があれば、勤務体制を含め協力する。事業所から研修や資格取得を勧め、受講しやすい体制がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者及び管理者はスタッフの手本となるよう積極的に入居者及びそのご家族と接している。また、勉強会を行い、スタッフに周知し実践するようにしている。	勉強会は、内部外部を通じて行っていない。また、テキストやパンフレットも整っていない。	コロナ禍で外部研修の機会がないが、内部研修の実施は可能である。人権教育は利用者のみならず職員にも大切なことであり、テキストやパンフレットの整備、研修会の実施を期待する。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修や資格取得の講習へ参加できるように人員調整を行っている。また、ある程度経験年数を重ねた者には、その経験に見合った資格取得を勧めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな外部研修及び市役所主催の研修等に参加して、同業者と交流しサービスの向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、それまでいらした施設などからの情報を参考にしている。特にご本人には密なコミュニケーションをとり、他利用者様との仲介を行うことで安心感を持って頂くようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には特に注意を払って関係づくりに努めている。まずは傾聴し、ご家族の不安・要望についてはいつでもお答えできるようにお伝えしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような生活を望んでおられるかを必ず伺っている。必要に応じて訪問歯科や訪問マッサージの導入を見極めている。特に訪問歯科については誤嚥防止・認知症進行予防のため、ご家族へ積極的に話をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理をし、下膳や洗い物や食器拭き、洗濯物を干して取り込みたたみなどをして頂いている。ご自分の部屋の掃除機がけ等もおすすめて頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様がよりご自分らしく暮らせるよう、面会時などにご相談をしている。利用者様の要望に職員が応えられない場合にはご家族へ連絡し、協力を頂くこともある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の要請があり、ご本人の承諾があれば受け入れている。また、以前住んでいた場所を見に行きたいという要望があった際には車でお連れした。	本人がこれまで大切にしてきた人や場所については、本人や家族、関係機関からこれまでの生活の情報を収集している。今まで使っていた物や、いつも通っていたスーパーへの買い物、友人への電話、実家と一緒にいくこと等を通じて、馴染みの関係が切れない支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いっしょ会に参加して頂き皆で話をする機会を設けている。また関係性を見極めて席の配置をしたり、場合によっては職員が間を取り持つなどしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転院された方で、事情により一泊の要請があった際は受け入れをした。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から、ご希望を察するよう努めている。また家事をお好きでない方、多人数での活動がお好きでない方については決して強要せず、ご本人が楽しめる事をして頂いている。	契約時に、本人や家族から聴き取った希望や意向は、個人ファイルの「入居者サマリー」欄に記載している。入居後に知り得た希望や意向に関する新しい情報は、「申し送りノート」によって職員間で周知している。本人から聴き取りすることが難しい場合には、家族訪問時に積極的に尋ねている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に出来るだけお尋ねしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段からこまめな観察と記録を心がけており、特に普段と変わったことがあれば気が付けて記入し、全員が把握できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望を第一とした上でご家族や主治医に相談や提案をし、その結果を介護計画に反映している。	ケアマネジャーが示したケアプラン原案に、主治医からの指示や助言、職員からの意見を加えてケアプランを完成させる。実行中のケアプランについても随時、職員はケアマネジャーに対し、意見を寄せている。見直しの生じたケアプランについては、家族訪問時に説明し、同意を得ている。場合によっては、来所を促したり、郵送したりもしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化でも記録に残すようにしている。その上で職員間で様々な考えをだし合い、試行錯誤しながらより良いケアを探し出している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前、重度の入居者様のご家族と遠方へ旅行された際には出来る限りのフォローをさせて頂いた。今後もいつでもそのような支援ができるよう努めていきたいと考えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館で行われている音楽サロンへの参加、夏祭りやどんと焼きなど行事への参加をしている。また介護ボランティアの受け入れをしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族に受診や訪問診療の説明をし、希望に応じ選んで頂いている。ご家族の希望があれば他の医療機関への受診も支援し、協力医療機関の医師には入居者様の状態について、必要に応じて直接連絡をさせて頂いている。	本人や家族の希望で、協力医療機関外への受診についても、職員が同行して支援している。入居の際、かかりつけ医を事業所の協力医療機関に変える場合は、入居前の医療情報を確実に伝えている。家族受診付き添いの際には、保険証等の必要書類を家族に渡している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から風通しのよい関係を構築している。介護職は気づきや心配事などいつでも何でも看護職に相談しており、受診タイミングを逃すことがないよう、看護師が中心となって協力医へ報告、指示を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より主治医との情報交換や相談に努め、入院時には施設看護師が普段の状態を詳細に説明し、医療機関で適切な治療が受けられるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは段階的に話し合いを行い、ご希望に沿って支援を行えるように取り組んでいる。主治医への早めの報告と相談を心がけ、診断によっては適切な時期にご家族・主治医・施設でのカンファレンスを開催している。	看取り対応の利用者については、ケアプランに、看取り体制について記載し、対応の安定と均一化に努めている。かかりつけ医は状態の変化に際し、その都度、家族に状況を報告している。付き添い家族の宿泊や食事の提供をするなどの協力をしている。利用者は、主治医指導のもと、できるだけ普通の生活を過ごして貰っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備え対応について事前にご家族に説明し、同意書をいただいております。体調の変化時にはご意向の差し替えを行っている。また、急変時の対応の流れを決めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の連絡網に区長に入っていたいたり、訓練への参加に声をかけ、地域との協力体制を築いている。	地域に長く根ざして運営されて来たためか、地域と良好な関係にあり、徒歩3分ほどの公民館が避難所となっており、公民館の備品も利用できる。防災訓練を行う際には、非常ベルを鳴らすこともあり、地域にお知らせのチラシを配っている。避難訓練は、年2回行われている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に内部研修を行い、その中に言葉かけの重要性も入れるようにしている。画的ではなく一人一人の個性や好みを考慮して言葉を選び、その都度納得していただけるよう心掛けている。	ご飯茶碗や湯飲み、箸等は個人毎に用意されている。職員が利用者に関わる際には、名前で呼びかけ、用件を伝えようとしている。自室のドアは室内の様子を窺う小窓のない、木製の1枚板で作られている。排泄チェック表は、キッチンカウンターに置かれていて、通りすがりに覗かれないように配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人がどうしたいかを言える雰囲気作りをしている。また何事も無理強いをしないよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も強要はせず、食事・いっしょ会・家事などもご本人がしたい方法やペースに合わせてして頂いている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容ができない方については職員が介助している。入浴後は目の前に鏡を置いてスキンケアを促したり。洋服の相談があれば一緒に服を選んでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事がお好きな方については一緒に調理他、台所仕事をして頂いている。また、味付けも利用者様方に相談しながら決めて頂いたりしている。	毎日毎食、利用者からの要望と冷蔵庫内の食材に応じて、その日の献立を決めており、事業所では献立表を作成していない。また、菜園の野菜は、食べ頃になると職員、利用者の手によって収穫され、調理されて食卓に並んでいる。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量には特に気を付けて把握している。必要な量や内容が摂れるよう、その方の好みに合わせたり、摂りやすい形状にしたりと工夫をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医と相談し、アドバイスを頂きながら一人一人の状態に添ったケアにあっている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗により自尊心が傷つくことがないよう気を付けている。パッド使用の方については早めの交換を心がけ、自立の方もトイレやポータブルトイレの使用を自然な形で促している。	排泄表は、介入の必要な利用者について作成している。排泄状況をチェックし、失敗させないよう支援している。入居間もない利用者については、サインを見逃さないよう、申し送りノートを通して、職員間で情報収集して、排泄のサインを探している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、水分量・食事を工夫し（ヨーグルト・サツマイモなど）、軽体操などをして頂いている。改善出来ない場合は主治医へ相談し、服薬調整を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	時間については無理強いをせず、ご本人が気持ちよく入れるよう配慮している。入浴を好まれない方については、担当職員を交代したり、入浴剤を入れたり、足浴からお誘いするなどしている。	全利用者が週2日は入浴できるように努めており、入浴の希望があれば、いつでも対応できるよう準備している。入浴を拒否される利用者には、入浴剤やボディーションの色や香り、声かけの方法等を工夫している。日中臥床している全介助の利用者も、座位が取れる状態であればシャワー浴を提供している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調整、清掃に気を配っている。また入床時間は利用者様のペースにお任せしている。昼夜逆転が気になるようであれば日中に活動を増やすことを心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については全職員が目にするノートに貼り、いつでも見られるようにしている。薬が変わったらその都度看護師より申し送りがあり、注意点など周知するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方には家事を、体は動かせないが料理の仕事をしていた方には味付けを、華道をされていた方には花を生けて頂くなどして頂いている。また、役割の他にも歌の先生をしていた方には皆の前で歌って頂く機会を度々設け、山登りが趣味だった方には毎日の散歩など、張り合いを持って頂くようにしている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって毎日でも散歩の支援をしている。また選挙に行きたいと言われる方を期日前投票にお連れした。その際は、手元にハガキがなかったものの、市役所の方々のご支援により投票できる手続きをしてくださった。	現在は、新型コロナ対策のため外出することは殆どない。買い物も配達サービスを利用しているが、以前は近くの公園に、往復40分ほどかけてほぼ毎日散歩に出かけたり、利用者お気に入りの近くのスーパーまで買い物に出ていた。地域行事参加のために、ご家族に応援依頼もしていた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば手元に財布とお金を持って頂いている。お祭りに出かけた際はご自分で飲み物を買われた。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の承諾を頂いたうえで、希望があればいつでも電話をかけて話して頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭のリビングや台所のような雰囲気作りを心がけている。利用者様が漬けられた梅干しの瓶を置き、施設の庭に咲いた花を利用者様に生けて頂いている。また不快だと言われる飾り物などに関しては、支障がなければ取り除いている。	元々民家であった建物を利用しているため、利用者は実際に家庭で過ごしている様に過ごすことが出来る。庭に花があるときはその花を摘んできて食堂に飾ったりしている。室温や娯楽についても決まったルールがある訳ではなく、その時の利用者の求めに応じている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、その時々のお雰囲気により席を替わって頂いたり、ソファをおすすめするなどしている。自立度が高い方はご自分で自由に使っておられる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族主体で決めていただいている。入居の際、ご本人の馴染みの布団や家具などを持参して頂き、見慣れた環境の中で生活して頂けるようにしている。	洋間と和室が用意されており、希望に応じて選ぶことができる。全室、エアコンとベッドが備え付けられている。家具や調度品は自由に持ち込むことができる。部屋にはご家族との思い出の品々が飾られている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手摺を配置し、廊下には物を置かないようにしている。ご本人ができる部分については、見守り介助をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		